

みくにじんじや

神国神社

心の門

人生は自らの心から出でて
自らの心にもどる

好むと好まざる 信じる信じざるとも
人は夫々それなりに
神様に守護されているのである
故に人は信仰を成す義務が
課せられているのである

「天下天上より降る」

人心道義を失い

国乱れ更に困窮を生ず

聖賢の文言未だ此れを知らず

天下天上より降る

正座心眼を以て三道を一道と

成せば日の本の淵源已ずから

世に開くものなり

「日本神道の教義は道義なり」

日本神道が、軍国主義に協心しているが

如く誤解されているのは誠に遺憾である。

神道が政治的に利用されたに過ぎぬ。

「神は争い事を好まぬ」

此の神意を悟れずは、真の日本の再建は、

成し得ぬ事と知れ。

「御神意」

神は万民の為のものであつて個人及び特定の人のものでなければ又宗教の対象とすべきものでもない

神は神聖で偉大で無限の力を有する生命体である

信仰と宗教は根本的に違いがある
信仰は神意を以て其の掟に従い
宗教は人の思想による教えに従う

神主の神知らず、僧侶の仏知らずなるが故に宗教が蔓延るのである

「願い叶わずの七訓」

- 一、知らざるが故に叶わず
- 一、改めざるが故に叶わず
- 一、学ばざるが故に叶わず
- 一、成さざるが故に叶わず
- 一、働かざるが故に叶わず
- 一、信じざるが故に叶わず
- 一、悟らざるが故に叶わず

「意を成す五訓」

- 一、利を以て益を生かす
- 一、徳を以て道を生かす
- 一、信を以て敬を生かす
- 一、心を以て誠を生かす
- 一、義を以て恩を生かす

「道義を成す言葉の三訓」

一、「申し訳御座居ません」と過ちを素直に詫びる言葉

二、「御願ひ致します」と真心で願う言葉

三、「有り難う御座居ました」と心から礼をする言葉

（人が営みを成す上での言葉の三訓）

「人が成すべき二道の道」

一、神の道（敬神の心）

二、人の道（道義の心）

三、仏の道（供養の心）

（三道を以て一道と成すが真の信仰なり）

知るもよし 知らぬもよしや 何れをも

知るも知らぬも 世を去りて知る

神国神社 「心の門」